14. 5-53
1200501212806
'4.5
53

報別冊 第六十號

財政金融の前途に就て

全國經濟調査機關聯合會

始

14.5-53

財政金融の前途に就て

（昭和七年十二月二十三日第五十一回東京支部會）

衆議院議員　大口喜六氏

發行所寄贈本

先日巖谷君からお話がありまして、今夕の御會合に罹り出るやうにと云ふことでありました。私は此頃諸方で行はれまする座談會のやうなものと考へまして、皆様の御説を承はることも出來る、洵に良いことであると喜んで出席のお受けを致しましたのでありますが、其後の御通知を拜見しますると私が一人で講演するやうになつて居るのであります。殊に唯今もお話がありました通り演題を定められまして『財政金融の前途に就て』と云ふのでありますから、之には少々恐縮致したのであります。併ながら折角のことでありますからお斷はりも致し兼ねまして、兎に角出席を致したのでありますが、金融のことでありますれば私等が申上げませぬでも皆様の方が御專門であられるのでありまして、甚だ痛み入る次第でありますから、まあ今晩は財政の方のことを主に中心として愚見を申述べることに致したいと考へます。何卒それで御用捨を蒙りたいと存じます。尤も財政のことに就きましても唯今御紹介下さいましたやうな譯で、暫く當局者では居りましたが實を言ふと素人であります、若し私の説に誤りがありましたことに御氣付でありましたならば御遠慮なく、後に御教示なり御質問なり下さいまして私の蒙を啓いて戴くやうに願ひたいと思ふのであります。さう云ふことであればもう常に慣れて居りますから幾ら御攻撃になりましても大して驚きもせず怒りも致しませぬ頗る不死身になつて居りますから何卒御遠慮なく後に御注意を願ひたいと存じ

ます。

そこで此財政の前途の話でありますが、それを申述べますには先づ以て財政の現情に就きまして少しく申述べる必要があると考へるのであります。最早や御承知になつて居ることゝ存じますが、昭和八年度の豫算案も先日の閣議で決定になりました通りで、未だ其内容に就きましては詳細なことが發表になつて居りませぬからよく私の方に分つて居りませぬ。殊に特別會計に屬します豫算案の定まりましたのは極めて最近のことでありまして、其内容等は到底未だ知ることが出來ないのであります。隨て純計に據つてお話を致しますとか、又細かな數字を擧げまして議論を致すと云ふことは今晩は少し出來兼るやうに存じます。夫故に唯其概要に就きましてお話を致して見たいと考へます。

それから一應お斷はり致して置きたいと考へますが、我國の財政上には言ふ迄もなく一般會計と特別會計とがありますが、特別會計の結果は御承知の通り大概一般會計の上に現はれて參るやうになつて居るのであります。隨つて此一般會計に就きまして論じますれば先づ我國の財政の大勢と云ふものは分ることゝ考へますので、例に依りまして今晩も主として一般會計に就て申上げて見たいと考へるのであります。

先づ昭和八年度に於ける一般會計豫算を見ますると歳入歳出は各々二十二億四千萬圓ばかりとなつて居るのであります。其中歳入に就て見ますると經常部に屬しますものが十二億八千八百萬圓ばかりであります。さうして臨時部中公債以外の收入は五千三百萬圓程であります。それを合計致しますると十三億四千餘萬圓になりますが、是が公債外の歳入の全部であります。それを歳出に比較して見ますと八億九千六百萬圓、一口に言ふと約九億圓と云ふ

ものが不足になるのであります。此不足する所の經費を何に依つて補塡すべきかゞ問題でありましたが、御承知の通り政府は其全部を公債に依ることに決したのであります。隨つて昭和八年度に於て新に發行さるべき公債額は一般會計のみに於きましても約九億圓となるのであります。其上特別會計に於きましても相當に公債の發行を要しますが、其額が約一億圓内外と承知して居ります。少し一億圓が切れるかと存じますが約一億圓と致しまして合計十億圓ばかりの公債が新に發行される譯になるのであります。斯の如く昭和八年度の一般會計と申しますものは歳入が非常に不足致しますので、其歳入の約四割と云ふものは借金である譯であります。隨て觀樣に依りましては隨分危い財政であると申すことが出來やうかとも考へるのであります。併し此豫算案が貴衆兩院を通過致しますれば兎に角それで昭和八年度の財政と云ふものはやつて行かれる譯であります。然らば昭和九年度はどうなるのであるか、昭和十年度は如何であるかと斯う押して參りますると、之にも矢張り相當な公債が伴はなくてはならぬことが考へられるのであります。さうなりますと我國の公債總額が百億圓に達しますことも決して遠くはないやうに推測されるのであります。

斯う云ふ風に私が論じますると如何にも此公債額の增しますことを非難致しますか心配致すやうに聞えるでありませうが決してさう云ふ譯ではないのであります。私は唯に公債額が多くなるからと云つて恐れるものではありませぬ。又驚くものでもないのであります。要點は財政上は勿論、一般經濟上に就きまして相當に見據が付けば……將來の計畫と云ふものが確立致しましての上でありますれば決して公債が殖へましてもそれに驚くにあたらぬと考へるのであります。唯其計畫が確立致しませず、公債の利拂ひをするのに更に公債に依らなければならぬと云ふこ

とでありましては是は餘程前途を考慮致さなければならぬものであると考へて居るのであります。然らば其見据と云ふものは果して如何にして付け得られるのであるか、所謂將來に於ける財政計畫と云ふものは如何にして確立され得るのであるか……此問題が實に當面に於て重要性を有つて居ると考へて居るのであります。

そこで此財政計畫を樹てますことに就て一應茲に考へて見たいのであります。それには先づ以て歳出の方から考へたく存じます。御承知の如く昭和七年度に於ける一般會計豫算と云ふものは歳入歳出各々十九億四千三百餘萬圓であります。其歳出に對しまして昭和八年度に於て當然減になるものと當然增になるものと差引いて計算して見ますると結局四億三千餘萬圓だけが當然減になる譯であります。此當然減と云ふ言葉は大藏省で使つて居りますが、ちよつと分り難いかも存じませぬが、皆樣には御説明申さなくてもお分りのことゝ存じます。即ち昭和七年度で計畫して居りまして、其計畫として當然昭和八年度には增さるべきもの、又計畫上當然昭和八年度には減つて參るもの、それを稱して當然減、當然增と申して居りますが、此增減を差引まして昭和七年度に較べて昭和八年度は四億三千餘萬圓の當然減になる譯であります。そこで其數字を昭和七年度歳出總額十九億四千三百萬圓から差引いて見ますと殘りが十五億一千三百萬圓ばかりになりますが、是が即ち昭和八年度に於ける歳出の標準豫算となるべきものであります。或は歳出の基礎數字とも申して居ります。隨て此標準豫算額と云ふものは昭和七年度に實行されて居ります事業の中で、其計畫を撤回して仕舞ひますか、又は中止して仕舞はざる限りは動かし得ざる所の數字になるのであります。所が此十五億幾らと云ふ數字に對しまして昭和八年度の歳入は唯今申しました如く公債以外の、臨時部の收入迄をも加へまして總額が約十三億四千餘萬圓に過ぎぬのでありますから此間に於きまして一億七千餘

萬圓と云ふ歳入不足がある譯であります。即ち此一億七千餘萬圓と云ふものが所謂純粹の赤字であると考へます。其上昭和八年度に於ける各省の新規要求は新聞紙上等で御承知の通り最初十四億圓ばかりでありましたが、大藏省で査定を致しました結果、其中七億四千餘萬圓だけが承認されまして、さう云ふことで閣議が決定した譯であります。所が此新に要求された七億四千萬圓と云ふものに對しては先に申しました如き事情でありますから一厘の財源も無い譯であります。隨て其全部は公債に依つて支辨せらるゝのであります。

然らば其七億四千餘萬圓と云ふものは果して如何なるものであるか、斯う考へて見る必要があると思ひます。勿論前にもお斷はり致して置きました通り極く細かいことは未だ分つて居りませぬが、大體から計算を致して見ますると、其中約二億九百九十萬圓は……一口に申せば約二億一千萬圓でありますが、それは陸海兩軍の兵備改善に要する經費であります。次に一億八千六百萬圓ばかりが滿洲事件費であります。それから一億六千萬圓ばかりが時局匡救に要する費用になつて居ります。更に八千八百萬圓が爲替差損金の追加要求であります。三千九百萬圓が國債利子の追加要求であります。其外色々なものを集めまして五千九百萬圓ばかりでありますが、斯う云う內容に依つて新規要求七億四千萬圓が出來上つて居る譯であります。

そこで財政計畫を樹てます場合に於きましては、先づ考へねばならぬのは唯今申しました新規要求に關する諸經費の將來は全體どうなつて行くのであるか、之をどうしても先づ檢討して見る必要があるのであります。

先づ第一に陸海軍の兵備改善費でありますが、其大部分と云ふものは今迄既に決つて居りまする繼續費の年度繰上げと見て宜いのであります。唯今食卓でもちよつとお話致しましたが、此陸海軍の現在出來て居ります計畫と云

ふものは實は田中内閣の時に決定されたものが基礎になつて居るのであります。當時私は大藏省に居りまして其の折衝の任にも當りましたので相當に承知を致して居る考へで居りますが、陸海軍共に國防上どうしても是だけのものは必要であると云ふ要求でありまして、大藏大臣に於きましても其必要を認めまして決定をしたものが閣議を通過して議會に提出された。さうして貴衆兩院を通過致したのであります。所が其豫算が決定致しますと洵に僅かの間に田中内閣が總辭職になりまして、之に代つたのが濱口内閣であります。然るに濱口内閣は御承知の通り金の輸出解禁に當りまして、吾々から申すと極端なる緊縮節約の方針を執りました結果、此陸海軍の計畫と云ふものはすつかり繰延られたのであります。其時に陸軍大臣は替りましたが、政友會内閣のときに是だけのものは繰延られない、是でなくては國防が十分でないと主張されたものを内閣が替つて陸軍大臣、海軍大臣が替はれば直ぐ繰延に應じられると云ふことは如何であるかと吾々實は議會に於て此事を追究致したものであります。そう云ふことで出來上つて居るのが今日の陸海軍の軍備計畫の根幹をなして居ると私は信じて居ります。其繰延られたものを今回又或程度に繰上ねばならぬ、繰上る必要があると云ふのであります。

そこで此陸海軍が最初繰上計畫をしたのはどうであつたかと申しますると、昭和八年度から三ヶ年間に約十二億圓だけの繰上げを行ひたいと云ふのであつたことゝ私は承知致して居ります。尤も海軍の方には四ヶ年度に亘るものも少しはあつたやうに思はれますが、兎に角それだけの計畫に對しまして昭和八年度に於て先刻申した通り約二億一千萬圓だけを實施致しまして、餘の約十億に對する繰上計畫は未だ何とも決めずに置かうと云ふのが今度の豫算であります。隨て昭和八年度だけの分としては陸海軍に對して二億一千萬圓の繰上を致しますが其後は濱口内閣が繰延べた其儘の形で置かうと云ふことになつて居る樣子であります。必ず議會ではさう云ふ形式で提出されることゝ私は考へて居ります。隨て是からどれだけ未だ陸軍海軍が繰上要求をして來るかと云ふことは確然として居ない。さう云ふことになりますと財政計畫上から申しまして極めて不確實な所があります。又陸軍海軍それ自身に致しましても是では洵に自ら安心では無からうかと考へざるを得ぬのであります。當然國防上に必要缺く可らざるものでありますから以上は私共はどこ迄も認めたいと考へて居るのであります。併し此陸海軍に於きましても辛棒の出來得るものであるならば是はどうしても辛棒して戴くことゝ考へます。其邊は成るべく經濟的に、而も國防上に缺陷の無いやうに計畫を樹てられねばならぬと考へるのでありますが、兎に角遠慮なく必要なだけはたとへ、後年度に亘りましても適當な計畫を定めて其基礎を樹てゝ貰はないと財政計畫上に甚だ不安があると私共は考へて居ります。そこは結局國防と財政と相俟つて膳立てをして貰ひたいと考へる點であります。

次に滿洲事件費でありますが、是は當分の中必要が續くことゝ考へねばなりませぬ。どうしても要るものは要るのであります。更にそれに續きまして時局匡救に關する經費でありますが、是は御承知の通り昭和九年度限りで打切られることになつて居るのであります。隨て其後或は形を變へまして別の方面に或程度のものが現はれることがあるかと云ふ想像はし得ますけれどもが、兎に角時局匡救費と云ふ費目では昭和九年度限りで終りを告げるものと見て宜からうと思ひます。是は極めて重要なものだけを擧げたのでありますが、唯今申したやうな風に歳出の重なるものに就きまして一つ々々先づ以て其前途の計畫を樹てまして、必要なものは何處迄も必要である。繰延られる。省いても宜いものは省いて行くやうに先の見据を一つ々々付けて掛かることが必要であると考へて居るのであ

ります。

更に考へねばなりませぬのは先程申しました標準豫算に就てゞあります。昭和七年度から當然的に送つて來られた基礎數字、即ち其標準豫算に就ての研究であります。之に對しましても勿論其中に無駄がありますれば省く必要があります。假令無駄と申します迄でなくとも節約の出來るものは矢張り節約を致さなくてはならぬと考へて居ります。即ち是は所謂行政財政の整理と云ふことになるのでありますが、併し此の行政財政の整理と云ふことは中々困難な問題であります。殊に此場合餘り官吏の首等を馘りまして失業者を多く出すと云ふことになりましては是は一面に於て考へものであります。併しそれかと申しまして出來得る限りは矢張り整理致すことが當然であります。實は之に就きましては私は以前から一つの議論を有つて居りまして、詰らない自分の著述の中にも此事を書いて置きましたが、思ひ切つて此行政財政の整理をしやうと考へますれば或は各省大臣の受持を廢しまして、大臣の全部を無任所にする、ありやうに申しますれば明治の初期に參議がありましたやうに、あゝ云ふ遣方に一時之を復する、此大改革からやつて掛らなければ到底今日のやうに……言葉が惡いか存じませぬが各省割據と申しても宜いやうな遣方になつて居り、所謂豫算の分捕りと云ふやうなことが露骨に行はれて居ります。此弊は容易に改むることが出來ないであらうと考へます。併し是は前に申します通り、中々容易な仕事ではありませぬ所謂言ふべくして行はれ難い問題であるかとも存じますが、併し今日の事務をもつと簡略に致しまして、吾々が常に主張して居りますやうに、あるものをもつと〳〵地方に委任をして行くやうな形式に改めれば相當の整理が出來ることゝ考へて居るのであります。此出來得ることは先づ以て何處迄も實行致さねばならぬと考へます。

以上述べました所は、先づ歳出中の主なる點に付きまして、財政計畫を樹てる上に、どう調べてどう處置して行くかといふ例を申上げたのでありますが、更に歳入の方に付ても例を申述べたいと考へるのであります。歳入に於きましては、どうしても税制の根本的整理改正が必要であると思ひます。勿論この税制の中には、廢税すべきものもありますし、又減税を必要とするものもあると考へます、之に反して增税をして宜しいと信ずるものもありまして、又新規に課税致すべきことが適當であると考へるものもあります。

その一節を申して見ますれば、これもまあ私が持論のやうにして今日まで申して居ることでありますが、私は常にさう信じて居る。租税といふものは、むづかしい理論などよりも、寧ろ實際に即しまして、租税を納める人が出しいゝやうな所から成べく租税を取りたい。即ち取る方から言つても、取り易いものに賦課して行くことが宜いと考へて居るのであります。謂はゞ應能課税主義、能力に應じて課税をするといふことがいゝ方法であらうと信じて居ります。隨て私は凡ゆる所得に課したいといふ考をもつて居ります。

例へば今日私が株を買つて、明日賣つて、十萬圓儲けましても、私は商人でありませぬから一厘の所得税をも課けられないのであります。營業税をも課けられないのであります。これは宜しくないから、凡ゆる所得に税を課するのが宜いと思ひます。

併しその代りに、有ゆる借金の利子はその所得から差引くことが適當だと考へて居ります。例へば、借金に依つて、それを資本として株を持つて居る人も、自分の資本そのもので株を持つて居ります人も、所得が同じでありますれば同じ租税を取られて居るのが今日の現狀でありますが、それでは金を借りて株を持つて居る人は、場合に依

つては金利と税金の御奉公をしてしまふやうなことになるのでありますから、凡ゆる借金の利子を引くのがいゝと考へて居ります。これは理窟は洵にいゝやうであるが、面倒で徴税技術上から困難であるといふ議論がありますが、財産税を起しますよりはどの位この方が徴税技術上よりも樂であるか分らないと私は信じて居るのであります。

これは固より一つの例でありますが、斯ういふことをだん〳〵研究して見ますと、税制中に於ても改良を要しますことは隨分澤山あると思ひます。私はその結果單一所得税論者でありますが、而し單一所得税では均衡が得られぬ場合がありますれば、補完税としては或る種のものに特別所得税を課して行きさへすれば行けるといふ信念を有つて居ります。

さういふやうに、だん〳〵御話しますと餘り長くなりますから、税のことはこの程度に止めたいと思ひますが、兎に角税制をどうするのか、この根本に向ひましても、當局者が腹を据え、見透しをうんと付けて掛りますことがこの場合極めて必要であると考へるのであります。

併しそれよりも尙ほ歳入に關しまして、大切であると考へますのは、申すまでもなく一般經濟との關係であります。これがうまくさへ參りますれば國民の所得も殖えて參る譯であります。國民の所得さへ殖えれば國の收入も勿論增して行く道理であります。併しこの話は、經濟界の現狀から將來に亘りまして論じませぬと徹底せぬと考へるのであります。財政と經濟と離るべからざることは私が申すまでもありませぬが、斯ういふ風に研究して參りますと、一層その間に親密な關係を發見せざるを得ないのであります。けれどもこの經濟の問題をこれからひろげますと、なか〳〵多岐に亘つて參ります。殊に先刻から申します通り皆樣方はその道には極めて御堪能の專門家であられますので、私などがこゝに多岐に亘つた經濟談を致す必要はなからうと思ひます。隨て私はこゝには當面の問題だけに付きまして所見を開陳致すことにとゞめたいと考へます。

私共は、我國の萎微致して參りました經濟界を匡救致しますするのには、先以て金の輸出再禁止を斷行せねばならぬと考へた譯であります。勿論これを斷行致しますれば我國の爲替相場は下落するものと考へたのであります。爲替相場が下落するといふことは、國の經濟的信用が世界に低まる譯である。爲替相場が上るといふことは、その國の經濟的信用が世界に高まるものである。斯う信じられる方もあるやうでありますけれども、それは、我國の經濟力が充實致しまして、それで、今日の貨幣法から申しますれば、純金の一匁を僅か五圓で海外に拂出しましても一向差支のないだけの力になつて居りますものであるならば、成程現在の平價で金解禁を致して、爲替相場がどん〳〵上りますことを以て、洵に信用が高まつたと申して喜んで宜からうと考へるのであります。然るに我國の實力がそこまで參つて居りませず、只多くの金貨を惜し氣もなく海外へ拂出してやることに依つて、爲替相場が高まつたといふので喜んで居りましたのでは、實はそれが爲に國民の拂はせられまする所の經濟的犧牲といふものは實に少からざるものであると考へたのであります。

そこで、私が申すまでもありませぬが、爲替相場が下りますれば、我國の生産品は大體に於きまして外國では安くなる道理であります。そこでそれを外國に賣りまして、あちらから受取つて參りました貨幣を我國の紙幣と交換しますれば、比較的多く貰へることになりますから、内地ではその物價は高くなる道理であります。隨て生産品は

所謂引合ふやうにならねばならぬ道理であると考へたのであります。さうすれば輸出は次第に順調となるべき筋合でありまして、貿易上にも次第に好影響を與へるものであると考へざるを得なかつたのであります。

併しそれだけではまだ財界を匡救することが出來ぬ。そこには所謂金廻りといふことをよくすることが必要である。金融が付いて參りませぬければ産業も起りませぬし、あの極端な所まで參つた經濟界を匡救することは出來ない。けれどもこの金廻りをよくする原因としては、先づ以て兌換券條例の改正をしなければならぬ。さうしてそれに依つて保證準備の擴張、並に制限外發行に對しまする納税の緩和等を圖ることが必要であると考へたのであります。それが出來ました以上は、更に進んで不動産の資金化であるとか　或は中小農商工に對する資金の供給であるとか、それから國民の負擔整理、又政府から言ひますれば政府事業の促進といふやうなことで、總て金廻りが付いて來ることに對して、出來るだけの努力を拂ふ必要があると認めて參つたのであります。

最初、私の如きは、甚だ漠然とした考へであつたやうでありますが、實は爲替相場に對しましても、對米爲替二十五ドルあたりが分岐點ではないかといふやうに考へまして、愚見を發表致したこともあるのであります。然るにその後の狀況を見ますると、やはりそこらあたりから輸出貿易は次第に順調になつて參つたのであります● 今日少し回復したやうでありますが、尙ほ對米爲替二十一ドル幾らといふやうな今日に於きましては、輸出貿易がなかなか盛んであります。さうして今年の貿易は久し振りに或は輸出入の均衡が得られるのではないかと言はれて居るのであります。このことは私が申しませぬとも皆樣の方がよく御承知のことゝ存じます。

然らば爲 替相場はどこまでも安いのがいゝのかと申しますと、申すまでもなく決してさうではないのであります。

爲替相場が安ければ我國の生産品を比較的に少い海外の貨幣と代へることゝなるのであります。隨て國家經濟全體から考へますれば、決してこれは喜ぶべき現象ではない。それならば爲替相場は高いのがいゝかと申せば前にも申しました通り、如何に爲替相場の高いのがいゝと申した所で、我國の生産品が海外に賣れなければこれは何のことでもないのであります。其の上爲替高の結果と致しまして、輸入が益々旺盛になるといふやうなことでありますれば、結局我國の經濟界はそれが爲に惡影響を被りまして、國民は經濟的に少からざる犧牲を拂はねばならぬことになるのであります。さう考へますと、爲替相場といふものは、歸する所斯ういふことになると信ずるのであります。生産家と資本家と、さうして勞働者とが、相互ひに辛棒し合つて、共々に歩み得られる程度の所に安定されねばならぬものであると信ずるのであります。而も今日の現狀から申しますと、もう今日までに相當の經驗を得て參りまして、その結果最早何處が安定點であらうかといふことは略ゞ推測し得られるではないかと考へざるを得ぬのであります。これ以上私は爲替の安定點に付てははつきりと今晩は申上げたくはありませぬ。これだけ申せば今の所は御了解下さること、考へるのであります。

然らばその爲替相場を安定せしむる方策如何、斯ういふことになるのであります。それには純金の買上方法に改正を加へまして、爲替を平衡せしめる。その資金の充實を圖つて參る途もあると考へます。一口に爲替平衡資金と申しますと直ちに、英國のやうなことをやるのであらうかと考へて議論をされる方もありますが、さうばかりではないのであります。我國に適した方法が立ち得ると考へます。併しそれにには相並行致しまして、少くとも爲替管理、もつと徹底的に言へば貿易管理まで行く必要があるかと存じますが、先づ只今の所では爲替管理、これは一面

に用意をする必要があると考へて居るのであります。併しこれらに付きましてこれから議論を進まますことは、大分横道にもはいりますし、色々御議論もあることであらうと思ひますから、やはり話をこゝに止めることに致しますが、兎に角爲替相場の安定といふことは極めて今日の急務であると考へざるを得ぬのであります。

實はそれに對する確信がつきまして、はじめてそこに産業政策の根基といふものも立てられる譯だと思ひます。その産業政策の根基が立ち得られまして、そこに財政上の見据もついて來る譯だと考へるのであります。所謂財政計畫を樹てまする第一歩は、確かに今日としてはこゝになくてはならぬと考へるのであります。そこでこの財政計畫のことに付きましても、もう少し穿つたお話をするといいとも考へましたが、釋迦に說法でもありますし、餘り長くなると考へまして、先づこの邊でこの話を止めたいと思ひます。

そこで私は、話を、先刻申しました昭和八年度の豫算がいよ〳〵實行されることになりました曉には、果してそれがどういふ風に經濟界に響いて參るか、このことに轉じて申し上げて見たいと思ひます。兎に角昭和八年度の豫算が實行致されますれば、先刻も申しました通り、十億圓内外の公債は發行される譯であります。そこでその大部分は今日の所ではどうしても日本銀行に於て引受られねばなりますまいかと考へます。そこでそれから得た所の資金が目的通りに支拂はれることになりますれば、言ふまでもなく我國の通貨は相當に膨脹して參るものと思はれるのであります。御承知の通り、昨二十二日の繰越を見ますと、兌換券の發行高は十二億七百七十萬圓ばかりになつて居りますが、これは年來の關係が大分にあると思ひます。さうして今月末にはまだ〳〵この兌換券の發行高は增加致すことであらうと考へます。けれどもそれは明年の一月末あたりには相當に又收縮されるのが例であるやうに承知して居ります。さういふことから、現在の通貨が先づどの位であらうかといふことを推測致しまして、更にそれに昭和八年度の豫算が實施されました結果どうなるか。斯う考へて見なければなりませぬ。

それには更にこの昭和八年度の豫算が、どういふ順序で、如何なる方法で實行されて行くかといふことの研究が必要であります。それを斟酌して考へますれば、まあどの位に通貨がなるであらうかといふことも、或る程度までは想像するに難くないと思ひます。その數字を私はこゝで言明致しますことは少し早計であると考へますが、兎に角現在以上に膨脹するであらうといふことは推測するに難くはありませぬ。又現在はその通貨の膨脹することが一つの目的の如くになつて居ると考へるのであります。そこへ持つて參りまして、金利の引下は今日も猶ほ要求されて居る要件の一つであります。私の如きも、これは致さねばならぬといふ論者の一人であります。さうなると物價は次第に上つて來るものと考へねばなりませぬ。御承知の如く、今日騰貴して居る物價は、直接海外に輸出されるものに對して最も著しいのでありまして、その外のものはまだ〳〵その割合には上つて居りませぬ。併し爲替が此邊に安定して、通貨が益〻增加し、金利が益〻下るといふことになりますれば、その他の物價と雖も自然に昂騰すべきものと考へねばなりませぬ。さうなりますと或は生産者はよいでありませうけれども、そこに起りまする一つの問題は、勞働者とか、給料生活者とかいふものゝ上に及ぼす影響でなければならぬ。これは通貨の膨脹を策して居ります今日から深く考慮を拂はねばならぬ點であると考へて居るのであります。隨て爲替相場を或る點に安定せしめる必要があります如く、通貨の流通高に對しましても、或る點に目標を置きまして、これを調節して參ることが極めて必要であると考へざるを得ぬのであります。それに付きましても色々な方法がありますことは諸君の御承知の

通りでありますが、差當り、日本銀行に持たせました公債で、賣出すことは出來ないといふ内約と申しますか、大藏大臣と日本銀行總裁の間に話し合はれて居るものが相當にあります。その内容も略〻承知して居りますが、一々申述べる必要もなからうと思ひます。さういふものは、一面に金利の引下が行はれると同時に、賣出させますことも私は惡くないと考へます。寧ろ賣出させる必要が生じて參る。それが當面の主なる策の一つになるであらうと考へざるを得ぬのであります。

隨てこの昭和八年度の豫算が實行されるやうになりますと、この豫算の運用といふものは少からず經濟上に影響をします。殊に公債の運用といふものは一層微妙な働きを經濟界に及ぼすものと考へざるを得ませぬ。これをも出來るだけ適當に運用致しまして、只今申します通り、經濟上に於ける總ての方面に對する調和の一材料と致さねばならぬことであると信じて居るのであります。

更に付加へて申上げたいことは、只今政府が行つて居ります不動産の資金化であるとか、低利資金の融通であるとか、又は公共事業の實施であるとか申すことに付きましても、事實上に於きまして、甚だ徹底を缺いて居るものが少くないと考へるのであります。それらに對しては、改むべきものは改めねばなりませぬ。方法の宜くないと考へるのは方法を改めねばなりませぬ。又足らないものに對しては補はなくてはなりませぬ。これは來るべき議會に於ても問題になることゝ存じますが、自然にこれは實際問題として經濟界、金融界にこのやり方が將來も影響して來ることゝ考へるのであります。

さう云ふことから推して考へますと、將來に於ける我國の金融政策はどうならねばならぬか。財政は何處へ持つて行つてどうしなくてはならぬか。斯う考へられて來ると思ふのであります。さうして、先刻も申しました爲替相場の安定といふことは、財政上の計畫が確實と見られませねば困難である事情があります。所が財政の計畫を確實にするには、爲替相場の安定が出來なければやはり立たないといふ事情がありまして、これは相關聯して居る問題で、同時に當局者が肚を決めて、肚一つで行ふべき事柄であると私は信じて居るのであります。財政家の最も手腕を要する點ではないかと考へざるを得ませぬ。

先づ私は今晩はこれだけのことを申上げて皆様の教へを乞ひたいと考へるのでありますが、併しこれだけのことでは、或は財政の前途といふことに付きましては頗る徹底しないやうに考へられるかも存じませぬが、これ以上穿つたことまで申上げませぬでも、その道に御堪能の皆様には略〻私の意のある所は御推察下さることゝ信じます。この邊で御宥恕を願ひたいと考へます。甚だ取止めもないことを申上げて恐れ入りますが、猶ほ御質問、御意見等もありますれば、謹んで伺つて、御答して宜いことは御答もし、又教へを受くべきことは謹んで教へを受けたいと考へます。

（了）

終